

外国人支援の会 OASIS

—Open Assist & Support In Sendai—

30 年のあゆみ



令和4年（2022年）3月

挨拶



外国人支援の会 OASIS
代表 反田恵美子

2000年4月、「ミレニアムだから、世代交代を！」と、4年目の私が突然団体の代表となりました。そして今年度はOASIS活動30周年。時代の流れの中で私たちも常に変化を求められてきました。草創の頃からのメンバーをはじめ、皆で課題に向き合い、夢中で過ごしているうちに気がついたら長い時間が経っていたというのが実感です。

1991年、仙台国際センター開館にあわせ仙台市が公募した「仙台I.V.ネットワーク」の相談支援部会として活動開始。六部会併せ500名以上の登録に、沢山の仙台市民が国際交流に関心を抱いている事に驚きました。私たちが担ったのは「仙台国際センター交流コーナー」での外国人への相談対応と情報提供。その後外国人の要望に応え「付き添いボランティア」「帰国子女親のつどい」「バザー」「交流イベント」等活動を広げました。

I.V.ネットワーク初期のころは国際交流を行う団体もわずかでしたが、ネットワーク解散の頃には「NPO」や「ボランティア」が市民権をもち、多方面にわたって活動が活発化、国際交流においても様々な活動を行う市民団体が立ち上がっていました。

そこで私たちは活動を「相談窓口対応」と「付き添いボランティア」に絞り、外国人支援に特化した市民団体「OASIS」として活動を継続することにしました。

実際「付き添いボランティア」の需要は年々増加していました。毎日誰かが付き添いに出たり、一日に2・3件重なっていたり、相談窓口を維持しながら付き添い活動をするのはとても大変でした。私自身「これはボランティア活動か？」と思うことも多々ありますが、会員一人一人が責任と機動力をもって対応、本当によく頑張っていると思自負しています。

「誰かの役にたっている。」これが大きなモチベーションです。

支援した外国人からの感謝が励みとなり、逆に私たちが彼らから支えて貰っているとも感じます。沢山の方々のご理解とご協力のお蔭で何度か表彰の機会もあり、活動を評価して頂きました。仙台市の国際交流に少なからず貢献できているのではないかと考えております。

また、常に私たちのそばにいて共に活動し、いつでも私たちをサポートし、励ましてくださる仙台観光国際協会（SenTIA）のみなさんには心から感謝を申し上げます。

昨年、今年と続くこのコロナ禍で再度私たちの活動も変化を余儀なくされています。どう引き継いでいったらいいのか。新たな課題です。でも益々外国人が増えている仙台市で私たちの活動は今後も確かに必要とされるものであらうと思っています。

祝 辞



この度、外国人支援の会 OASIS の皆様が前身から数えて創立 30 周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

貴会におかれましては、前身の I.V. ネットワーク（仙台市国際交流ボランティア・ネットワーク）が平成 2 年に設立されて以降、（公財）仙台観光国際協会（旧：仙台国際交流協会）との連携のもと、長年にわたり様々な形で外国人支援の最前線で活動に当たられ、本市における国際交流・多文化共生活動をけん引されてきました。

外国人一人ひとりの目線に立った相談対応や、子育て等日常生活の手続きへの付き添いボランティアなど、来日したばかりで日本語がままならず、日々の生活に不安を覚える外国人の方々にとって、貴会の支援が大変に心強いものであったことは想像に難くありません。この機会をお借りし、仙台市民を代表しまして深く感謝と敬意を表します。

現在、本市には約 1 万 3 千人の外国人の方々がお住まいです。「学都」としても知られる仙台は、古くから市内の教育機関で学ばれる留学生の方が多く、近年では四年制大学のほか、日本語学校や専門学校で学ばれる方も多くおられ、その数は年々増加傾向にあります。

こうした背景を受け、本市では「多様性が社会を動かす共生のまち」を目指す都市の姿の一つとして掲げ、多文化共生をキーワードに、様々な取り組みを進めております。貴会が取り組まれている活動は、まさに多様な文化的背景をもつ人々が、共にこの仙台で暮らしていくために不可欠なものであると切に感じます。

新型コロナウイルスの感染拡大以降、活動には様々な困難があろうかと拝察いたしますが、今後も多文化共生社会の推進のため、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、貴会のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和 4 年 3 月
仙台市長 郡 和子

祝 辞



外国人支援の会 OASIS の創立 30 周年、誠におめでとうございます。また、今日まで会の発展を支えてこられた皆様方のご努力に対し、心から敬意を表します。

1990 年に設立されました貴会の前身、I.V. ネットワーク（仙台市国際交流ボランティア・ネットワーク）につきましては、当協会の前身のひとつでもある（財）仙台国際交流協会が事務局を務め、以来、I.V. ネットワークが解散する 2006 年度末まで、共に仙台市の国際交流・多文化共生推進のために活動いたしました。

2007 年度に新たに「外国人支援の会 OASIS」として活動を始められてからも、引き続き、当協会が仙台市からの委託で運営する仙台国際センター交流コーナー（現在の仙台多文化共生センター）にて外国人住民からの相談に応じていただくとともに、国際交流イベントや外国につながる子ども支援事業など、様々な協会事業にご協力をいただいております。ここに、改めまして、貴会の多大なるご尽力に対しまして、深く感謝申し上げます。

貴会が創立された 1990 年には改正入管法が施行され、東海地方を中心に日系南米人の定住化が進みました。多言語による情報提供や相談窓口を設置する自治体が増え、市民による支援活動も活発化していきました。また、政府による留学生 10 万人計画、30 万人計画の影響を受けて、仙台市でも留学生とその家族を中心とする外国人住民が右肩上がり増加してきました。当時 5 千人台だった仙台市の外国人住民も、現在は倍以上の約 1 万 3 千人となり、窓口に寄せられる相談も、多言語かつ多岐に渡る内容となっております。

このような状況において、長年の活動によるご経験と知見をお持ちの貴会の役割は更に重要になっていくものと思われます。地域の多文化共生推進のため、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げ、創立 30 周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

令和 4 年 3 月
（公財）仙台観光国際協会
理事長 石川 浩史

目 次

1. 外国人支援の会 OASIS 30 年のあゆみ	2
I.V. ネットワーク相談支援部会	
留学生リサイクルバザー	
帰国子女親のつどい	
交流サロン	
その他（風揚げ交流会、ワークショップなど）	
I.V. ネットワークから OASIS へ	
カウンター担当者会、付き添いボランティア	
2. 座談会「30 年間の活動を振り返って」	15
3. 外国人から寄せられた感謝のメッセージ	26
4. 付き添いボランティア利用者からのアンケート	34
5. OASIS 会員の声	38
6. SenTIA スタッフからのメッセージ	44
7. 年表	45
8. 資料編	47
9. 編集後記	49

1. 外国人支援の会 OASIS 30 年のあゆみ

私たちは仙台多文化共生センター（仙台国際センター内）を拠点に、多岐にわたる相談受付、生活・観光・交流等の情報提供を行う相談窓口を開設すると共に、依頼に応じ各機関に言葉のサポートをする人材の派遣を行って、外国人を支援しているボランティア団体です。

外国人の方々が、不安なく日本での生活が送れるように、心に寄り添いながら活動をしていきたいと思っています。



<30 年のあゆみ>

- | | |
|------------|--|
| 1991 年 9 月 | 仙台国際センター開館と同時に「仙台 I.V. ネットワーク相談支援部会」
として活動開始 |
| 2007 年 4 月 | 「仙台 I.V. ネットワーク」の解散に伴い、外国人支援ボランティアグル
ープ「相談支援の会 OASIS」設立 |
| 2014 年 4 月 | 「外国人支援の会 OASIS」に名称変更 |

<参考>

- | | |
|------------|---|
| 1991 年 9 月 | 仙台国際センター開館 |
| 2015 年 4 月 | (財) 仙台国際交流協会 (SIRA)
➡ (公財) 仙台観光国際協会 (SenTIA) |
| 2019 年 4 月 | 仙台国際センター交流コーナー
➡ 仙台多文化共生センター |



30 周年おめでとうございます！

元仙台 I. V. ネットワーク相談支援部会
部会長 日向 則子

開設以来、30 年の長きにわたって活動を継続してこられたご努力に、心より敬意を表します。

発足当初は、仙台市内で生活する外国人の数も少なく、市民の間にも、まだボランティアに対する理解がそれほど浸透していない時代でした。全国的には、海外との交流が進むにつれて国際化が提唱され、仙台市でも「国際交流大綱」を策定し、市としての国際化に踏み出した時期でもありました。

仙台市では、1991 年に仙台の国際交流拠点として仙台国際センターを設置し、そのこけら落としに開催されたのが「日米市長・商工会議所会頭会議」であったと記憶しています。

国内はもちろん、外国からも多くの参加者を招き、開催都市仙台をアピールするためにもボランティアの活用が必須と考えられました。そこで開設されたのが OASIS の前身の「I. V. ネットワーク」でした。

「I. V. ネットワーク」は六部会の構成と活動内容などについては仙台市が作成し、運営については当時既存の国際交流団体の協力を得て発足しました。その六部会の一つが「相談支援部会」でした。

相談支援部会は、仙台国際センター・交流コーナーの相談カウンターで、在仙外国人の相談業務に当たるといふ漠然とした目的を与えられ、活動を開始することになりました。センターの職員の方々とともに、想定される問題の資料の収集に始まり、開設後は相談者のニーズに合わせて様々な活動をしてきました。生活用品の購入が大変だと聞いて、市民を巻き込んだ大掛かりなバザーを開設したり、留学生のためのリサイクル自転車の販売に協力したりと多岐にわたりました。その中の一つが現在も続く「付き添いボランティア」です。

その後、社会情勢の変化とともに「I. V. ネットワーク」もその役割を終えて、OASIS の活動に引き継がれていきました。新しく OASIS になってからは新体制を固め、実績を積み重ねてこられ、様々な表彰を受けてこられたと聞いております。

この間には、解決困難な問題も多くあったと思いますが、その都度、会員の皆様の英知により、乗り越えてこられた結果が大きな実績として残されてきたことと思います。最初は仙台国際センターの開設とともに発足したボランティア団体の一つでしたが、30 年後の今ではその中心的存在として、多くの外国人の生活支援的業務を担うまでになりました。

今後の活動の充実とともに、ますますのご発展をお祈りしております。

～～I.V.ネットワーク～～

1990 年、仙台市における国際交流のネットワーク組織として、「仙台市国際交流ボランティアネットワーク（通称：I.V. ネットワーク）」が発足しました。（財）仙台国際交流協会が事務局として、六つの部会活動を支援しました。



I.V. ネットワークを中心に市民団体が「団体連絡会」をつくり、団体間の情報交換を図りつつ、「仙台国際センターまつり」や仙台国際ハーフマラソン大会での国際姉妹友好都市選手の応援などの協同事業も行いました。相談支援部会は国際センターまつりではバザーを担当しました。

2006 年度末 I.V. ネットワーク解散。市民団体「OASIS」として再スタートをきりました。

～～I.V.ネットワーク相談支援部会～～

1991 年 9 月の仙台国際センター開館時に、（財）仙台国際交流協会の職員とともに「交流コーナー」にて情報提供・相談対応を開始しました。外国人が日本で生活・滞在する際に生じる問題の相談や、日本人、外国人を問わず寄せられるさまざまな問い合わせに対応し、改善策を考えながら、知識と経験を生かしてノウハウを積み上げていきました。

<仙台国際センター交流コーナー相談窓口>

○開館当初の開設日・時間

月曜・水曜・金曜（週 3 日）10:00～16:00

○その後幾度かの変遷後 月～金（週 5 日）へ

○土曜に開設していた時期もあります。

○会員それぞれが、週 1 回 3 時間を基本として

ローテーションを組み二人体制で対応しました。

○相談時の資料作成や広報など、（財）仙台国際交流協会（SIRA）の職員に支えて頂きながら共に活動。その後、相談のニーズに応えるため「付き添いボランティア」「帰国子女親のつどい」「バザー」「交流サロン」等へと活動を広げていきました。



～～留学生リサイクルバザー～～

仙台市に暮らす留学生が、生活用品を新たに購入する経済的負担を少しでも減らし、仙台市民が持つ生活用品の新たな有効利用を望む物品を、留学生が廉価に購入できるように橋渡しをして国際交流を図ることを目的に開催しました。

また、売上金は仙台市内の大学院・大学・短期大学・高等専門学校の留学生へ奨励金として授与すると共に、次回の留学生リサイクルバザーの原資としました。

同時にリサイクル自転車の斡旋も行いました。

<バザーポスター>

この年の提供物品は 2288 点

BAZAAR
FOR FOREIGN STUDENTS
留学生リサイクルバザー
SEP 19th 2004 (Sunday)
2004年 9月19日 (日)

SALE OF HOUSEHOLD GOODS
日用品販売

PLACE SENDAI INTERNATIONAL CENTER 2F
[HAGI] CONFERENCE HALL
場 所 仙台国際センター2階 大会議室【萩】
TIME 10:15~11:15

RECYCLED BICYCLES SALE
自転車販売

PLACE SENDAI INTERNATIONAL CENTER 1F
Beside the main door (outside)
場 所 仙台国際センター1階 防災センター前
TIME 11:00~12:00

共 催：(財) 仙台国際交流協会 / I. V. ネットワーク相談支援部会
詳しくは I. V. ネットワーク事務局 (月～金)
TEL (022) 265-2480

<ご協力を頂いた法人・団体・個人の皆様>

○(財)仙台国際交流協会：開場設営・市民への告知

○仙台市民の皆様：バザー用品の提供

日用品・雑貨・食器・衣類・寝具・家具・家電他

○留学生リサイクル自転車推進協議会：自転車の点検・整備

○赤帽宮城軽自動車運送協同組合：大型バザー物品個別配送

○学生ボランティア：バザー準備と接客・日本語会話のサポート

<奨励金授与> ○毎年約 10 人の留学生に奨励金 (3 万円) と賞状を授与

○授与者は各学校から推薦を受けた国際交流に貢献がある留学生

○「国際センターまつり」で授与式を開催し、市民の皆様にも紹介



～～帰国子女親のつどい～～

海外生活を経験し帰国した子ども達が日本の生活にスムーズに適応し、明るく健やかに学校生活を送れることを目的に、帰国子女の実情の収集と、悩みを共有し、情報提供や相談に対応しました。

1992 年 第 1 回： 海外生活経験者またはこれから海外赴任予定の市民の方々など
15名の参加、自由な話し合いを行う。

1994 年 第 3 回： 宮城県国際理解教育研究会に協力をお願いし、現職教師も参加。

1995 年以降 年 2 回開催：



前期は参加者の自由な話し合い。

後期は現職教師による講演及び話し合い。

2002 年 第 18 回を持って終了。

その後は仙台国際センター相談窓口にて個別に対応。

全 18 回開催の参加者総数は 220 名を超える。

○生活への不安、いじめ、海外と日本の学校生活の違いによる悩み、不満、とまどい、海外で修得した言語の維持への悩みなどが話し合われ、それぞれの経験からアドバイスや意見交換などが行われた。

また宮城県国際理解教育研究会の現職教師からは、学校現場での帰国子女に関する現状や日本語教育についてお話を伺い、保護者の悩みに対して貴重なアドバイスを頂いたりしました。

○広報：河北新聞、朝日新聞、仙台リビング、市政だよりに掲載。

天守台

帰国・外国人子女への
学校教育について話し合
う「第十八回帰国子女
・外国人子女親の集い」
(仙台国際
交流ボラン
ティアネッ
トワーク相
談支援部会主催)が先
日、青葉区の仙台国際セ
ンターで開かれた。写真
Ⅱ。

中山小(青葉区)の岡
作ってほしい」といった
意見が出さ
れた。

仙台市内
の二〇〇二
年度の帰国
児童・生徒
は二百三
人、外国人
児童・生徒
は二百二十
八人で、い
ずれも年々
増えている
という。

田拓校長を交え、市内の
帰国・外国人子女の保護
者ら約二十人が意見を交
わした。岡田校長は「外
国人児童には日本語指導
員が個別に語学指導や相
談業務を行っている」と
学校の取り組みを紹介し
た。

親からは
「帰国子女
が外国語力
を保持する
ための教室
は仙台にないのか」という
質問や、「学校行事などを
紹介した外国語冊子を
紹介してほしい」といった
意見が出された。

(河北新報夕刊 2002 年 11 月 15 日)

～～交流サロン～～

月1回 土曜日開催

“交流サロンで美味しいコーヒーを飲みながら外国の方とお話ししませんか” をキャッチフレーズに、1996年6月に交流サロンがスタートしました。

相談・情報カウンターを訪れる外国人の方々から、「言葉が通じない」、「話し相手がいなくて寂しい」、「友達がほしい」といったコミュニケーションに関する悩みのほか、お子さんの学校や日常生活での困り事まで、多くの相談が寄せられるようになりました。そんな方々のために私たちが何かできることはないかと模索した結果、気楽にゆっくり話しができる交流の場を提供することでお役に立てるかもしれないと、「サロン」をオープンすることにしました。

第1回目は、8か国、25名の方が訪れました。コーヒー通の部会員が淹れた美味しいコーヒーや手作りクッキーで、喫茶店のようなリラックスした雰囲気の中、楽しいひとときを過ごしました。日頃の悩みなどは、各テーブルについたホステス役の部会員が対応しました。それ以降、月一回のペースで開催されました。会を重ねる毎に、仙台市在住の方々だけではなく、交流コーナーを訪れた旅行者の方々などの参加もあり、自国の話で盛り上がることもしばしばでした。

外国人向けの相談機関も少なく、SNSもそれほど普及していなかった時代に、日本人と外国人だけではなく、外国人同士の交流の場としてもお役に立てたのではないのでしょうか。



～その他いろいろ～

凧揚げ交流会

日本のお正月文化を体験してもらおうと「仙台凧の会」のみなさんの指導のもと、本格的な凧作りをしました。竹ひごに紙を張り、思い思いに絵を描きました。大人も子どもも真剣に取り組み、とても鮮やかな色遣いやシックなものなど、お国柄が表れた素晴らしい出来でした。凧はよく上がりみな大満足でした。

～説明用～

Let's make a KITE and fly it together
凧・たこ作って一緒にあげよう

Adults and children
大人も子供も

★Time: Jan 27th (Sat) ★期日: 1月27日(土) P.M.1:30～

★Place: Sendai International Center (Lecture room)
★場所: 仙台国際センター(研修室)

★Registration fee: free (Everything is prepared, so you don't have to bring anything.)
★参加費: 無料(材料、工作用具等は全て準備してあります。)

★Program
1. Making a kite
2. Having friendship
3. Flying a kite

★プログラム
1. たこ作り
2. 交流会
3. たこあげ会



ワークショップ・研修会等



『ボランティアを取り巻く仙台の現状とこれから』
(2008年3月) 講師 日向 則子さん

日本語を母語としない子どもと親のための 「進路ガイダンス宮城」



2009年(第1回)より「日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイダンス実行委員会」に実行委員として参加。『進路ガイドブック』(英語版)作成・当日英語通訳などの役割を担いました

I. V. ネットワーク相談支援部会
カウンター担当のみなさまへ

平成10年10月30日
部会長 永島 保生

研修 カウンター研修会のご案内

秋も深まり寒くなって参りましたが、皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。さて、今年度2回目のカウンター研修を、下記の通り行なう事になりましたのでご案内致します。皆様のご参加をお願い申し上げます。

記

日時: 平成10年11月18日(水) 10:00～14:00
集合場所: 仙台駅2Fステンドグラス前に10時集合(時間厳守)
第2部のみ参加の方は国際センター研修室に12:45分集合
出欠: カウンターに11月11日(水)までに電話でお知らせください
Tel. 265-2471 (カウンター担当者がある時間)
* 第1部か2部のどちらか一方の出席も可能です。
* 欠席の方も必ずご連絡ください。

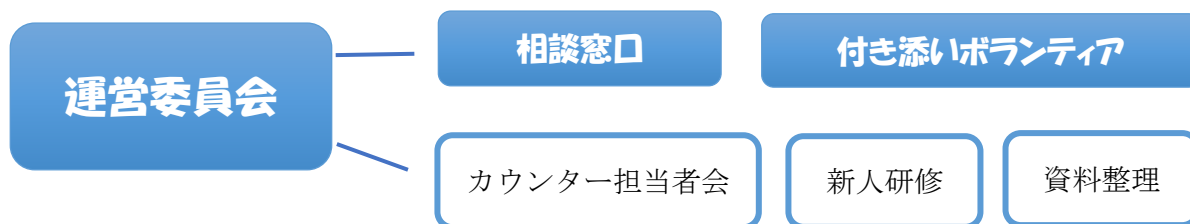
研修内容

第1部 関連施設見学ツアー (10:00～12:00)
* 仙台駅を起点として、青葉通りに沿って別紙のコースで見学します。
* 国際センターに集まり昼食 (12:00～13:00)
* 昼食は持参するか、お弁当を希望の方は注文しますので、必要な方は予約してください。

第2部 在仙外国人をお招きしての懇話会 (13:00～14:00)
* 講師はニュージーランド出身の Mrs. Jeanne Clayton さんを予定しています。Clayton さんは東京、四国、New York に居住された経験があり、仙台に来て6ヶ月余の方です。
現在、「日本人の外国人妻の会」東北副支部長をされておられます。
以上

その他にも、講演会、料理教室、他団体見学ツアー等々、さまざまな活動をおこなってきました

新団体「OASIS」は、時代のニーズの変化と付き添いボランティア需要増加により「相談窓口」「付き添いボランティア」を2本柱とする市民団体として活動スタート。



相談窓口

開設時間

月・木 13:00～16:00

火・水・金 10:00～16:00

開設回数：年間 170～180 日

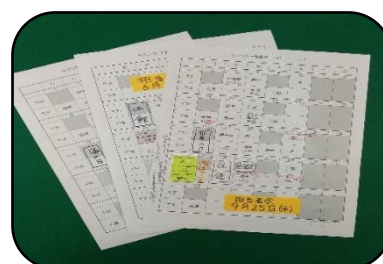
仙台多文化共生センター相談・情報カウンター（旧仙台国際センター交流コーナー相談窓口）にて、生活・観光・交流イベント等多岐にわたる相談受付及び情報提供を行っている。ただ近年はPC等IT機器の発達に伴い、自分で簡単に検索が可能な相談は減少の傾向にあるが、心の悩みや多様な要素を併せ持っていたり専門知識が必要な相談が増えてきている。

相談分野

- ・ 出入国 - 在留資格、ビザ、旅券
- ・ 法律 - 法律問題
- ・ 行政 - 保険、年金、税金、手続き
- ・ 教育・子育て - 保育園、幼稚園、学校、進学
- ・ 医療・母子保健 - 病院受診、検診
- ・ 身の上相談 - 悩み、心の支援
- ・ 暮らし - 引越、粗大ごみ、運転免許
- ・ 住居 - 公営住宅入居、不動産会社紹介、住宅探し
- ・ 労働 - 労働トラブル、求職
- ・ 日本語教育 - 日本語教室・学校紹介、学習支援希望
- ・ 国際活動 - 国際活動団体紹介、語学交流希望、ホストファミリー
- ・ 地域づくり - 町内会、地域住民の交流
- ・ 観光 - 観光・飲食店案内、民泊、交通機関、ホテル、タクシー
- ・ 余暇 - 文化体験、サークル紹介、イベント紹介、スポーツ施設紹介



＜カウンター担当表＞



カウンター担当者会

目的：会員同士の情報共有及び情報交換・親睦
参加者：OASIS 会員・仙台多文化共生センター職員
日程：月1回 総会時年間スケジュール決定

運営：全会員持ち回り
役割：会場申込・レジメ作成
司会・記録・報告書作成
内容：SenTIA からの情報提供
各係からの報告
相談対応事例報告
情報交換



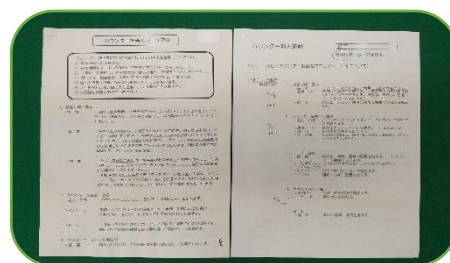
新人研修

- ・入会したら3か月間を研修期間とする。
- ・目的：業務の説明・様々なメンバーと関わる機会

<会則・業務内容等冊子>



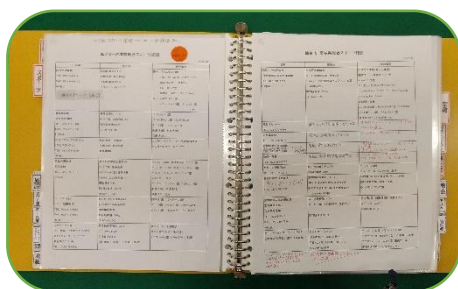
<新人研修マニュアル>



資料整理

相談対応に役立てるため、開設当初から作業開始。常時改訂を行っている。「出入国」「医療」「子育て」等のカテゴリーに分け整理。他の公的機関が発行した多言語資料も収納。

<資料ファイル>



資料は宝

付き添いボランティア(TSUKIBO)(付きボ)

付き添いボランティア（付きボ）は外国籍市民からの依頼に応じて、行政機関、教育機関、病院等さまざまな場所に一緒に出向き言葉のサポートをします。

この活動は I.V. ネットワーク相談支援部会発足 2 年目に外国人のニーズに応じて活動を開始しました。初年度は 1 件の実績でしたが、現在は年間 80～100 件の依頼があります。

通訳活動ではありますが、言葉だけでなく、日本の生活に不安な外国人の心に寄り添った活動をしていきたいと思っています。交通費等活動経費は仙台市から補助を受けています。

<近年の主な行先>

- ★子どもに関わる事（教育関係）が一番多い
 - ・保育園・幼稚園等の入園面談
 - ・小学校の入学準備会・保護者面談
 - ・妊婦健診・子どもの検診・発達検診等
- ★住居：物件見学・申請・説明・契約
- ★宮城県運転免許センター：日本免許への切替申請・試験

<依頼者>

- ★ 8 割が東北大学留学生及び帯同家族
- ★ALT や就労者

<対応言語>

- ★英語・中国語・スペイン語

付きボは OASIS と SenTIA（公財・仙台観光国際協会）の協働のもと活動を行っています。依頼は仙台多文化共生センターで受付後、OASIS が付添者の調整を行います。OASIS は常時センターに待機はしていません。依頼は早い方が確実ですが、調整できれば当日・土日も可能です。

<付き添いコーディネーターの役割>

仙台多文化共生センターで付きボの依頼を受けると、OASIS の付き添いコーディネーターにすぐ連絡が来て、付添者の調整をします。事前に各会員の活動可能な曜日・時間、住所、得意分野等を把握し、機動力ある活動が出来るよう心掛けています。

付きボは 1 件あたり 2～3 時間掛かることもあります。終了した時には充実感もありますし、支援した外国人から感謝されると更にやりがいを感じます。

<付き添いまでのながれ>

受付：仙台多文化共生センター
来訪・電話・メール等

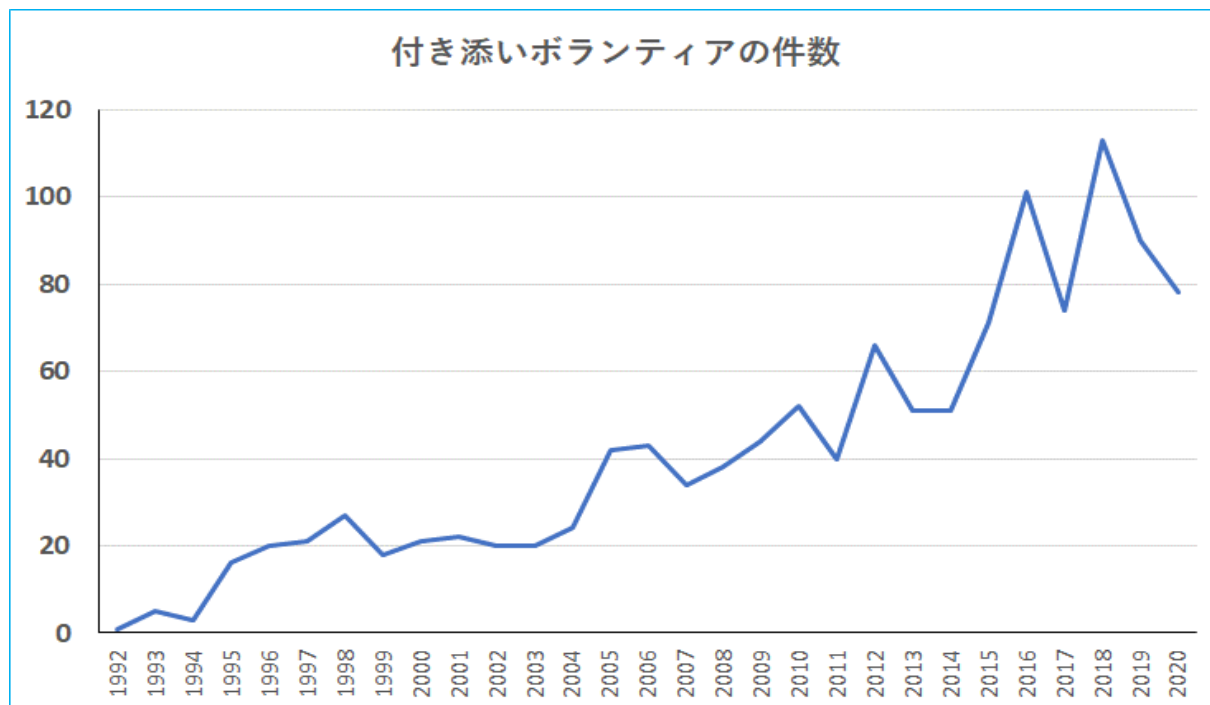
OASIS 付き添いコーディネーター

日時場所を確認して付添者を調整

付きボ

付きボは
無料

1992～2021 年までの実績



I. V. ネットワーク相談支援部会 (15 年間)

1992 (H4)	……1 件
1993 (H5)	……5 件
1994 (H6)	……3 件
1995 (H7)	……16 件
1996 (H8)	……20 件
1997 (H9)	……21 件
1998 (H10)	……27 件
1999 (H11)	……18 件
2000 (H12)	……21 件
2001 (H13)	……22 件
2002 (H14)	……20 件
2003 (H15)	……20 件
2004 (H16)	……24 件
2005 (H17)	……42 件
2006 (H18)	……43 件

外国人支援の会 OASIS (14 年間)

2007 (H19)	……34 件
2008 (H20)	……38 件
2009 (H21)	……44 件
2010 (H22)	……52 件
2011 (H23)	……40 件
2012 (H24)	……66 件
2013 (H25)	……51 件
2014 (H26)	……51 件
2015 (H27)	……71 件
2016 (H28)	……101 件
2017 (H29)	……74 件
2018 (H30)	……113 件
2019 (H31/R1)	……90 件
2020 (R2)	……78 件

2015年～2020年付き添いボランティア実績							
活動分類	活動場所	件 数 () 数字は中国語またはスペイン語					
		2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
法律相談		1(1)					
行政相談	区役所（市民税・年金課他）	3(1)		2		5(1)	3
出入国	入国管理局		1(1)				1
緊急	救急・警察					1	
医療	病院受診		2	1	1	10(3)	8(5)
	手術（術前検査・確認等）				2	1	
	入院（手続き・確認）		2		1		
母子保健	母子手帳交付		1				1(1)
	病院受診（診察・検診）		3		3	8(2)	8
	母親・両親学級・育児教室		6	1			1
	新生児家庭訪問			2		2	1(1)
	母乳・入浴指導					5	
	乳幼児検診	1(1)	1	1		1	1
	こども病院・小児科受診		3	1(1)		3	
	助産制度・高額医療費申請		1	2	1		
	県医師会ヒアリングセンター	1					
子ども	家庭健康課（検査・申請）		1		1		1
	保育所・保育園・幼稚園	22(1)	19(1)	40(2)	18(1)	22	27
	小学校	2	1		7	8	3
	発達支援相談（アーチル）	2	4	10	1	1	1
	発達支援通所施設	1	6	12			
	児童館	1	2	3	1	5	2
	進路ガイダンス			2(2)	2	2(1)	2
	教育委員会		1				1
	児童相談所		1				
生活	運転免許センター	36	22(2)	25(2)	18(2)	13	3
	自動車学校		1		1		
	宮城県運輸支局		3	1			
	公営住宅（手続・説明会）	2	2	5	6	7	1
	不動産（契約・内覧・退去）	3	2		2	4	5
	銀行・郵便局	2	5	1	1	1	2
	ハローワーク労働相談他	1(1)		4(2)	1	2(1)	
	電話契約等生活関連						
合計		78(4)	90(5)	113(9)	74(3)	101(7)	72(7)

2009年～2014年付き添いボランティア実績							
件 数		() 数字は中国語またはスペイン語				活動場所	活動分類
2014年	2013年	2012年	2011年	2010年	2009年		
		4(4)	1		8(5)		法律相談
1	2	1	3(1)			区役所	行政相談
				1		入国管理局	出入国
	2	4		3	5(1)	救急・警察	緊急
11	3	6	6(1)	6	6(1)	病院受診	医療
						手術	
						入院	
				1		母子手帳交付	母子保健
7(1)	12(2)			2		病院受診	
4	2			6	1	両親学級・育児教室	
1		2(2)	2(2)	2(2)	1(1)	新生児家庭訪問	
						母乳・入浴指導	
			1		2	乳幼児検診	
						こども病院・小児科	
				3		助産制度・高額医療	
		1				県ヒアリングセンター	
						家庭健康課	子ども
10	6	17	8	13(3)	6	保育園・幼稚園	
			1			小学校	
		1	8			発達支援相談	
	6	6			1	発達支援通所施設	
			2			児童館	
3	7	3	2	5	3	進路ガイダンス	
			1			教育委員会	
						児童相談所	
7	2	5		3	4(1)	運転免許センター	生活
						自動車学校	
	1	2			1	宮城県運輸支局	
	2	3	2			公営住宅	
2	2				3	不動産	
1	2	2	1	2		銀行・郵便局	
		1		2(1)		労働相談他	
4	1	8	2	3	3(1)	電話契約等生活	
51(1)	51(2)	66(6)	40(3)	52(6)	44(10)		合計

2. 座談会「30 年間の活動を振り返って」

日 時： 2021 年 10 月 27 日（水）10：40～12：30

場 所： 仙台多文化共生センター

出席者： 会田順代、伊藤三保、佐藤毅、反田恵美子、鈴木裕子、大黒道子、高橋真弓、
辻純子、宮仕佳恵、森博之（OASIS）
菊池哲佳、本郷真理香（SenTIA）

自己紹介・入会のきっかけ

菊池 はじめに OASIS（もしくは前身の I.V. ネットワーク相談支援部会）に入会したきっかけをお話いただけますか。

反田 まだ小さい子どもがいて、それでも何らかのかたちで社会に関わりたいと思っていました。特に英語を生かした活動ができればと思い、I.V. ネットワークに参加しました。



佐藤 定年退職をきっかけに OASIS に参加しました。かつて米国と中国に赴任した経験があるのですが、その時に海外で暮らすことの大変さを感じました。日本に暮らす外国人も苦勞しているのだろーと思い、少しでもお手伝いできればと入会しました。

辻 家族の仕事の関係で2年間米国で暮らしました。その時にボランティアの方々からお世話になりました。日本でも同じような活動があればその時のお返しをしたいと思ったのが I.V. ネットワークに入会したきっかけです。

宮仕 私も辻さんと同じように、米国に滞在していた際にボランティアの存在を知り、日本でも同じような活動をしたと考えました。帰国後、たまたま別のサークルで知り合った方に導かれ、I.V. ネットワークに参加しました。

大黒 私もお二人と同じ動機で I.V. ネットワークに入会しました。海外で暮らした際に非常に助けられました。日本でも同じようにお手伝いしたいと思いました。

森 JICA のボランティアで中南米に滞在した際に、私も現地の人たちにお世話になったということがあります。また当時、ゼロからスペイン語を学んだので、それを生かしたいということもありましたね。インターネットで OASIS のことを知り、入会しました。

高橋 私の場合は、宮城野区役所を訪れた時にたまたま I.V. ネットワークの案内を見かけたのがきっかけです。帰宅して夫に話したところ、お互いに海外に興味を持っていたので「良いんじゃない」という話になり、夫婦で入会することになりました。

伊藤 理由は2つあります。私も海外で暮らした時に英語が話せなくて苦労したのですが、ボランティアの方々にお世話になったので、そのお返しがしたいということが1つです。もう1つは、息子たちが家を出てとても寂しい時期があったのですが、その時に思い立って始めたのが英語学習でした。でも、ただ学習しているだけでは興味も続かず、そんな時に佐藤さんからOASISのことを教えてもらいました。いまはとても楽しく活動しています。

会田 私がOASISに関わるようになったのは、10年前の東日本大震災の頃でした。当時、私は事務職をしていたのですが、いずれは英語を生かして仕事をしようと考えていました。ただ、急に英語の仕事を始めるよりも、その助走としてNPOで活動したいと考えました。OASISの活動は現在の仕事と内容も関わる人も異なるので、新鮮ですね。



鈴木 私も、きっかけは海外で暮らした際に、現地のボランティアの方々にお世話になったことがあります。「何かお返しがしたい」と話したところ、「そういう思いがあるのなら、日本に帰ってから外国人の役に立つ活動をする」と言われたのです。そこで、仙台に戻ってから、近所の外国人宿舎に暮らす外国人家族のサポートを始めたのですが、やがて一人での活動はとても無理だと感じるようになりました。そのような時にI.V. ネットワークのことを知ったのです。

「帰国子女親のつどい」について

菊池 自己紹介をありがとうございます。I.V. ネットワークから30年という非常に長い間活動してきたので、全ての活動を紹介するのは難しいとは思いますが、いくつかご紹介いただけないでしょうか。はじめに、「帰国子女親のつどい」についてお願いします。

大黒 当時、中心的に活動なさっていた方がすでに退会されているので、私から説明したいと思います。「帰国子女親のつどい」は海外生活を経験して帰国した子どもたちがスムーズに日本の生活に慣れることと、その親たちが海外から戻ってきての悩みなどを話し合えるようにと始まりました。また、私たちが参加者への情報提供や相談に応じることができればということもありました。当初は私たちだけで始めたのですが、やがて宮城県国際理解教育研究会の先生方のサポートを仰ぐようになりました。1回目は参加者どうしの話し合い、2回目は国際理解教育研究会の先生による講演と質疑応答という年2回の実施となりました。

高橋 国際理解教育研究会の先生方は海外で教員を務めた経験のある方が多いので、海外から帰ってきた子どもの悩みだとか、日本と海外の教育の違いなどが分かるので、いろいろアドバイスしてくれました。ただ、そのような先生がいない学校の場合には、なかなか親の悩みを学校に分かってもらえないということがあったようです。

辻 私は、私自身が5歳から10歳までドイツで暮らしたのですが、帰国してからは学校の授業に付いて行くのに本当に苦労したことを憶えています。親としては、そのような子どもの姿



を見て、自分の子どもが学校で不当に低く評価されているのではないかと思ったり、一方で、親のせいで子どもが苦労しているという負い目を感じたり、と複雑な思いがあったようです。私は親の集いには何度か一参加者として参加しただけなのですが、やはり同じような話をなさる親がいらっしゃいました。そのような親の不安や思いを聴き、理解者がいると分かるだけでも意義があるのでは、と思いました。

高橋 当時の学校は、みんなが同じであることに価値を置く雰囲気が強かったように思います。例えば、体育着の上下が揃っていないということでも非常に気にするような先生もいらっしゃいました。私自身も転校の多い子どもだったのですが、宮城県の先生は体育着の上下が揃っているかどうかを特に気にする先生が多かった気がします。(一同笑)

鈴木 当時は帰国子女というとまだ特別な子どもという扱いを受けて、親も自分たちのことを周りの保護者に話しづらい雰囲気があったように思います。

高橋 「交流コーナー」(現在の仙台多文化共生センター)の相談・情報カウンターにも、そのような悩みを抱えた方がいらっしゃったり、これから海外に赴任するのだけれども、といった相談が寄せられるようになってきた時期でしたね。

宮仕 帰国した子どもが中学校の先生よりも英語の発音が母語話者に近いということでかえって悩んだり……といった話も当時はありましたね。

菊池 今でこそ外国につながる子どもの支援などの取組みは全国で行われていますが、当時はまだ少なかったのでしょうか。

宮仕 そうですね。子どもがいじめを受けるのではないかとといった心配から、感情的になっている親も少なからずいらっしゃいましたね。

大黒 自分たちは特別な境遇だと気負ってしまいがちな親もいました。私たちからすると、もう少し周りの様子を見て落ち着いた方が良いのでは……と思いましたね。そのような人たちも、親のつどいで話し合うことで、悩みやストレスを解消することができたようです。

菊池 過去の資料を見ると、活動は10年くらい続いたようですね。

大黒 1992年に始まって、2002年の第18回まで続けました。参加者はのべ220名に上ります。

菊池 今にして思うと、非常に先進的な取組みだったと言えますね。

「風の会」について

辻 「仙台風の会」という団体の協力を得て開催していました。竹ひごに和紙を張るところから絵付けまで、本格的な凧作りを教えてくださいました。参加者を広く募集していたので、日本人の子どもも参加しましたし、留学生も参加しました。留学生の絵付けはほんとうに色使いが豊かで、お国柄が表れているようなイラストを描く人たちが多かったですね。凧が完成したら、仙台国際センターの周辺で実際に凧上げをして、その後にお茶やお菓子をいただきながら交流会を行いました。親子で参加する人も多かったので、非常に賑やかだったことを憶えています。

宮仕 「仙台風の会」は、当時の生出村で稲の刈入れが終わった田んぼで地域の子どもたちを対象に凧上げをしていました。どのような経緯で風の会が始まったのかは定かではないのですが……。

高橋 冬の時期に、仙台国際センターで日本の文化に触れられるような行事をしましょう、という趣旨で協力してもらったのだと思います。

辻 印象的だったのは、仙台風の会のみなさんの道具箱が非常に充実していたことです。

高橋 本格的な凧作りなので、凧を上げると、かなり高くまで上がるのですよね。参加した子どもたちも喜んでいました。また、凧は上空に昇ると重く感じますが、子どもたちはそれに驚いていましたね。



「交流サロン」について

菊池 つぎに、「交流サロン」についてご紹介いただけますか。

鈴木 「交流サロン」は、コーヒーを飲みながら気楽に外国人と交流するという目的で始まった会でした。当時は現在と比べると仙台に住む外国人も外国人の相談機関も少なく、相談・情報カウンターには、「日本語がダメなので、誰も話をする相手がなくて寂しい」という声が寄せられていました。そのような声は、ご主人の仕事の関係で仙台にいらっしゃった女性に多かったように思います。当時は、私たちも相談・情報カウンター業務で忙しく、相談・情報カウンターを訪れる外国の方とゆっくり話をする余裕もありませんでしたが、熱心な会員の方々の働きかけにより、場所と時間を定める形でスタートしました。

辻 餃子を作ったこともありでしたね。

反田 チヂミも作ったことがありましたよ。

鈴木 どこでご紹介すべきか分からなかったのですが、仙台駅に集まって、100円ショップやハ

ローワークを見学するという行事もありましたね。

宮仕 行事ではなく、研修の一環として開館前のせんだいメディアテークなどの関連施設にも足を運びましたね。

「留学生リサイクルバザー」について

菊池 「留学生リサイクルバザー」は特に思い出深い活動の1つですね。

高橋 バザーは、初めの頃は交流コーナーの研修室で開催していたのですよね。私はその頃はまだ参加していませんでした。

大黒 仙台国際センターの大会議室で開催するようになってから、電化製品や家具など、取り扱う物品が多くなったので大変になりましたね。当時は「赤帽」（全国赤帽軽自動車運送協同組合連合会）の組合に頼んで配送してもらいました。おそらく10台近くだったでしょうか、ドライバーのみなさんに協力いただきました。私はドライバーさん全員が配送を終えて仙台国際センターに戻る夜9時くらいまで会場で待っていたのですが、それが大変でしたね。

高橋 赤帽さんもボランティアで配送してくれていましたね。普段、外国の人と接する機会がないので、と喜んで協力してもらいました。



反田 I.V. ネットワークが「仙台国際センターまつり」を開催するようになってから、I.V. ネットワーク相談支援部会として仙台国際センターの大会議室でバザーを開くようになりました。SIRA（仙台国際交流協会）が広く市民に物品提供を呼び掛けたので、たくさんの寄付が寄せられるようになりました。

高橋 当時は春と秋の年2回開催していましたね。

反田 自分たちで電化製品の通電を確認したり、物品の値付けをしていたので、準備は遅くまでかかっていました。値付けと言っても、市場価格よりもかなり安価に設定したので、当日は留学生が開始前から大勢集まって、先を争うように並んでいました。

宮仕 全自動洗濯機をめぐって留学生どうしの喧嘩が始まって、ということもありましたね。

辻 あまりに多くの留学生が集まって、私たちだけでは運営が難しくなったので、当日は学生ボランティアに協力してもらうようにもなりました。

高橋 あの頃は、引き出物など、当時は使われていない物が各家庭にたくさんあるような時代だったのだと思います。

宮仕 その後、100 円ショップなどで生活用品が購入できるようになっていきましたね。

反田 当時は広く市民に協力を呼び掛けていたこともあり、ほんとうにたくさんの物品が集まりました。バザーの売り上げで留学生に奨学金を提供していました。

宮仕 奨学金の授与式では、初めの頃は奨学金と簡素な賞状だけ渡していたのですが、留学生は奨学金を受け取ることを非常に誇りに感じていたようなので、もっと立派な賞状を準備できれば良かったと後になって思いました。

菊池 ご苦労はあったかと思いますが、当時の留学生は助かったのではないのでしょうか。

高橋 そうですね。防寒着、布団、こたつは特に助かったようです。9 月に来日する留学生の場合は、来日後に急に寒くなるので、人気がありましたね。

鈴木 私は布団の販売を担当していたのですが、飛ぶように売れたので最初は驚きました。日本では布団が欠かせないということもありますし、家族を呼び寄せるにあたって必要となる留学生もいたようです。

高橋 そのほかに、着物、乾物の食品なども売れましたね。

反田 バザー、奨学金授与式のほかにリサイクル自転車販売もしていたので、仙台国際センターまつりの当日は大忙しでした。留学生バザーはその後、「仙台国際センターまつり」が「せんだい地球フェスタ」としてリニューアルされるまで続けました。

「付き添いボランティア」について

菊池 ありがとうございます。つぎに「付き添いボランティア」について教えてください。いつから活動を始めたのでしょうか。

反田 あらためて調べたところ、1991 年（平成 3 年）から始まったようです。

宮仕 私と大黒さんが初めて付き添いボランティアの第 1 号でした。産婦人科のクリニックに行きましたね。



反田 1992（平成 4）年は 1 件、1993（平成 5）年は 5 件、1994（平成 6）年は 3 件と開始当初の依頼は少なかったのですが、I. V. ネットワークが解散する 2007（平成 19）年には年間 40 件を超える年もあるようになっていました。その後はしばらく 40 件前後で推移していたのですが、2016（平成 28）年には 100 件を超えるまでに増えました。I. V. ネットワークが設立された頃にはまだ市民団体も少なかったのですが、私たちが活動をしている間にさまざまな分野で市民による支援も増えていきました。その

ような背景もあり、OASIS の活動は相談・情報カウンター（交流コーナー内）での対応、付き添いボランティアの2つに絞ることにしました。その結果、付き添いボランティアの依頼はますます増えて、やがて 100 件を超えるようになっていきました。

宮仕 最初の頃は対応が難しいケースも多かったように思います。いまでも覚えているのですが、中東出身の方から、妻の出産に際してどうしても女医でないと絶対に困る、と言われてしまったことがあって。女医さんを探すのが大変でした。そのうち医者も病院にもシフトなどの事情もあるのだから、と怒ってしまって。その時は大変でした。でも、最近は依頼に際してそのようなこだわりを言われるケースも減っているように思います。



反田 いまでも要望は言われますけど、対応が難しいことを伝えれば納得してもらえることが多いですね。医者に限らず、保育士でも女性を希望する場合がありますね。

会田 そもそも付き添いボランティアでは、依頼者から男性にしてほしい、女性にしてほしい、という要望はよく言われることなのでしょうか。要望があった場合には応じるのですか。

反田 ボランティアは男性にしてほしい、という依頼がありましたね。ただ、それは男性の依頼者が男性専門のクリニックを受診するにあたっての依頼でした。

佐藤 森さんが人間ドックへの付き添いをしたことがありましたよね。

森 その時は、クリニック自体が男性専用のフロアと女性専用のフロアに分かれている所だったのです。そのための要望でしたね。

反田 女性の依頼者がボランティアの性別を気にすることはありますが、少なくとも私たち自身は依頼者の性別を気にすることはないですね。（一同笑）

鈴木 最近は多様性への理解も進んできていると感じます。保育園でもハラル対応の所が多いですね。ただ、クリスマス会やハロウィーンなどがあれば、宗教上の行事ではないだろうかと気にする外国人保護者もいらっしゃいますし、保育園でも例えばキリスト教系や仏教系の所もありますので、やはり丁寧な説明が必要ですね。

反田 宗教上の戒律をどこまで厳格に守るかは、人によって温度差がありますね。

高橋 同じ家族でも、個々人で考え方も違うこともありますね。

菊池 これまで対応したケースで特に印象に残っているものはありますか。

森 私は対応件数が少ないのでどれも印象に残っているのですが（笑）、南米出身の方で、夫婦それぞれに何度も付き添いしたことがあって、大変でした。

反田 大変なこともあります、付き添いボランティアはとても感謝されますし、役に立っていることを実感する活動ですね。私たちの活動や連絡先は口コミで広がっているようです。

宮仕 ある夫婦の出産に付き添ったときは大変でした。病院に付き添う場合でも診察までは付き添わないのが団体での約束なのですが、夫婦にも医者にも頼られてしまい、個人としては人道的にも手伝いたいと思いつつも、団体としてのルールもあるので、そのようなケースの対応が難しいですね。

鈴木 当時は支援団体も少なかったもので、私たちが対応せざるを得ないような場面もあって、難しかったですね。私も助産の付き添いでは何度も苦労しました。そのほかに私が印象に残っているのは、人探しへの協力です。かつて進駐軍として仙台に駐留していた方と結婚して米国に在住する女性からの相談で、仙台に暮らす兄を探したいというものでした。彼女の昔の住まい近くの交番に相談したところ、偶然にも探している方を知っているということになり、お引き合せまでできました。良いことをしたと思うのですが、今だったら警察もそのような情報提供はしないでしょうし、私たちもそこまでやるべきではないのかなとも思うので、悩ましいですね。

反田 本来は規則などを詳細に決めるべきかもしれませんが、ケースによって線引きが難しいということはありますね。

辻 私たちがどこまで対応すべきか、というのは本当に難しい問題ですよね。かつて中国帰国者から対応が難しいケースがいくつも寄せられたことがあったのですが、その対応で中国語話者の会員が苦労していることもありました。



反田 近年は SenTIA の「コミュニティ通訳サポーター」をはじめ各団体がさまざまな支援事業を始めているので、役割分担できるようになってきていると思います。ですので、確かに対応件数は増えているのですが、私たちが無理することは少なくなっているかと思いますね。

東日本大震災に際して

菊池 ありがとうございます。もう1つ聴きたいことがあって、東日本大震災の時のことです。当時のことで何かエピソードなどあればお願いします。

反田 3月11日は私がしばらく対応していた留学生が、学生寮を出て市営住宅に入居する日でした。それまで私が建設公社への付き添いなどをしていたのです。今日は入居日だなと思っていた矢先に、あの地震がありました。私は心配になって電話をかけたのですが、結果的

に入居をキャンセルして帰国したようです。

宮仕 私は震災でけがをした外国人がいるかもしれないと思い、市立病院などに赴き「通訳が必要な場合は連絡ください」と申し出たことを憶えています。ただ、幸いにも通訳の要請はなく、心配していたようなことは少なかったのかなと思いました。

高橋 私が震災の翌々日だったと思うのですが、SIRA から依頼されて、仙台市内の各避難所に「外国人の方や避難所の方がお困りのことがあれば連絡ください」と電話をかけました。

菊池 当時、高橋さんが一手に引き受けて電話してくださっていましたね。

高橋 そうですね。家族とも連絡が取れないまま仙台国際センターに来ていました。避難所に電話をかけても「外国人はいません」「日本語が話せなくて困っている人はいないです」という反応がほとんどで、外国人はどこに行ったのだろうと思いました。

菊池 私も当時、避難所を巡回していたのですが、避難所運営者が外国人避難者の存在に気付いていないことが多かったですね。

高橋 運営者自身が余裕がなくて気づかないということもあるでしょうし、外国人被災者自身も声を上げないということがあったのかもしれないですね。

活動のこれからについて

菊池 OASIS の今後の活動について考えていることはありますか。



反田 これまでの30年間は活発な活動を行ってきたのですが、これからどうして行けばいいだろうか……というのはありますね。これまでの話からも分かるように、私たちの活動は「サポートしたい」という個人の気持ちを大切にしてきたので、支援にあたっての厳密なルールも定めていませんし、そのような活動のあり方を次の世代に伝えていくことも難しいとも思っています。また、コロナ禍で相談・情報カウンター業務も休止しているので、新規会員の受入れもできない状況が続いています。

やはり、相談・情報カウンター業務で経験を積んだからこそ付き添いボランティアができると思うので、この先どうなっていくのだろうという不安があります。一方で、そうは言いつつも、なるようにしかならないという気持ちもあります。近年はいろいろなボランティア活動、団体も増えていますし、若い人たちに任せれば良いかなとも思っています。

鈴木 付き添いボランティアを始めた原点を振り返ると、相談・情報カウンターでの相談対応ではカバーできないことを市民活動でやって行きたいということがあったと思います。原

点を見つめ直して、付き添いボランティアは続いていけば良いなと思っています。

宮仕 付き添いボランティアは通訳者というよりも、外国人に付き添うことでその人の不安を和らげようということが原点にあると思います。ですので、通訳者としての範囲を守るといった線引きには捉われないで、サポートしたいという気持ちを大切にしたいですね。

反田 そうですね。ただ、団体として考えると、次の世代にどのように引き継いでいけば良いだろうかと考えると、難しいですね。比較的新しい会員の森さんや佐藤さんはどのように考えますか。

森 これから新しい会員が入ってきて、会員が入れ替わっていけば、いまとは違った考え方になっていくかもしれません。その時々によって考え方が変わっていくこと自体は、私は良いのではないかと思います。

反田 私もそのように思います。ですので、私もあまり心配しないようにしています（笑）。

宮仕 私もいまのOASISのような、ある程度責任感を持った自由なやり方が良いように思います。

佐藤 私は入会して間もなく付き添いで行った病院で、病院のスタッフから検査前の注意事項を一日だけ通訳してほしいという話があり、引受けたのですが、通訳をしているうちにどんどん専門的な内容になっていったので、どこまで引き受けるべきなのか難しいと感じたことがありました。また、その日の午前に検査の手続きが終わったので、私は付き添っていた外国人の依頼者と病院の受付に「帰りますね」と伝えて病院を後にしたのですが、その後に病院から仙台多文化共生センターに「佐藤さんという通訳の人が帰ってしまったようなのですが」と電話があり、結局その翌日も病院に行くことになったことがありました。私としては病院に頼まれて通訳したつもりはなかったので、ボランティアのあり方を考えてしまう一件でした。ただ、仙台多文化共生センターのスタッフと一緒にその都度考えながらやっていけば良いと思うので、現状のかたちで活動が続けながら変えるべきところがあれば柔軟に変えていくという姿勢で良いかと思います。

反田 宮仕さんが言うようにそもそも私たちは通訳者のつもりで付き添いボランティアを始めたのではなく、付き添うことで何か役に立てればという気持ちで始めたのですよね。活動の中心は通訳ではなく寄り添う事というのが私たちの趣旨でした。それに加えて、私たちはカウンター業務を通じて会員どうしの横のつながりがあります。互いに教えあったり情報交換できるからこそ付き添いボランティアの活動を継続できていることもあると思います。

辻 私個人のことで言えば、若い頃よりも楽な気持ちで付き添いができているように思います。若い頃よりも心のゆとりがあるのだと思いますし、私自身の経験も生きているのだと思います。付き添い活動には英語力以上に必要なものがあるように思います。

宮仕 通訳者の役割が前面に出てしまうと、困る場面がありますよね。病院で突然「この書類も

ついでに通訳してもらえませんか」と次々に言われたこともありました。

反田 留学生であれば日本語で話している内容はある程度理解できるけれども、自分の気持ちを日本語で伝えられないというケースもありますよね。依頼者やケースに応じて柔軟にサポートできればと思います。

座談会を終えて

1991年に交流コーナーが開設されて以来、SenTIA（旧SIRA）では30年に渡ってOASIS（旧I.V.ネットワーク相談支援部会）と「二人三脚」で外国人相談事業に取り組んできました。私自身も協会スタッフとして20年以上OASISの皆さんと活動してきましたのですが、今回の座談会で初めて知ることも多々あり、懐かしさと新鮮さが交錯する貴重な時間でした。座談会を通じて特に印象に残ったことが2つあります。1つは、OASISの様々な活動から国際化していく仙台の姿がその時代ごとに浮かび上がってくることです。もう1つは、変わっていく仙台の姿やOASISの活動に関わらず、30年間のボランティア活動を支えてきたOASISの皆さんの変わらない思いです。後半の話にもありましたように、これから活動をどのように継続していくかなど課題もありますが、OASISの皆さんが大切にしてきた思いは様々なかたちで引き継がれていくものと思います。（進行：菊池哲佳 国際化事業部国際化推進課企画係長）



3. 外国人から寄せられた感謝のメッセージ

過去に付き添いボランティアした外国人の何人かのみなさんに電子メールを送りメッセージをお願いしたところ、11 通の返信がありましたのでご紹介いたします。

Asad Ali さん

Thank you so much for your email. Following is my Message for the Booklet.

I wanted to get a Japanese Driving License but the officers at Vehicle Driving License Centre (VDLC) could not speak English. I contacted OASIS Sendai. They arranged an Interpreter for me. The Interpreter took me to the VDLC in her own car. She spent the entire day with me. She went with me from window to window. Helped me with everything and reserved a test date for me. Again, another interpreter was there a month later on my driving test day. Both of them explained each and every step. Similarly, I know several people assisted by OASIS Sendai.



I would like to thank all the volunteers working at OASIS Sendai. I would like to request you to continue the good work. OASIS Sendai works with such determination and great sincerity in the service of Internationals in Sendai.
Thanks.

(翻訳)

OASIS からのメールありがとうございます。次が記念誌に対する私からのメッセージです。

私は宮城県運転免許センターで日本の免許を取得したく OASIS に連絡をしたところ、通訳の人を手配してくれました。その人は私を宮城県運転免許センターまで連れて行ってくれ、各窓口で全ての手続きや次回の運転テストの予約など一日中通訳の手伝いをしてくれました。一か月後の運転テストでは別の通訳の人が来ました。2 名の通訳の人は私の運転免許取得までそれぞれ全てのステップを通訳してくれました。同様にほかの外国人も OASIS から支援を受けたことを私は知っています。

OASIS の全てのボランティアの方々に感謝を申し上げます。これからも引き続き宜しく願いいたします。OASIS は仙台の国際的なサービスにおいて、その決意と素晴らしい誠意を持って取り組んでいくでしょう。ありがとうございました。

Rhonda Ong さん

Hello OASIS ladies,

I am definitely glad to write a message for your 30th year anniversary! :)

OASIS is a volunteer group that sincerely helps foreigners with all kinds of necessary procedures that you can think of when you come to Japan. For example, utility bills, finding an accommodation, getting a driving license, seeing a doctor and many more. They are very responsible and helpful. Without your existence, my arrival in Sendai would be much tougher. Thank you so much.

(翻訳)

こんにちは、OASIS の皆さん。

30 周年記念についてメッセージを書くことにとてもうれしく思います。

OASIS は外国人が日本に来た際、私が多くの必要な手続きを考える時、外国人を心から手助けしてくれるボランティアグループです。例えば、光熱費、住居探し、運転免許、お医者さんの診察などとても多くのことです。彼女らは強い責任感と支援を持っています。OASIS の存在が無ければ仙台での私の生活はとても大変なことだったでしょう。本当にありがとうございました。

Samaneh Noabadi さん

Do not be tired of your activities in the first place. I thank the coordinating team . Because I like to think a lot and I realize how much thought and effort has been put into each activity. I thank the members of the group . Your practical activities were really great. I hope you will start more practical activities again after the Corona era.



(翻訳)

まず第一に、どうぞ OASIS の活動を続けて下さい。何故なら OASIS のそれぞれの活動には大変な想いと努力が注がれているからで、この組織されたチームとメンバーに感謝します。OASIS の実践的な活動は本当に素晴らしいものです。私はこのコロナ禍の時代が終わっても、さらに実践的な活動が再開されることを期待します。

Yan Fahmi Swastiraras さん

Hello OASIS!

I am doing well. It's awesome that OASIS is turning 30 this year!
I hope everyone in OASIS is doing well and stay healthy. Below is my message for OASIS.



OASIS helped me more than 5 times during my stay in Sendai. All of them was related to nursery school and hospital stuffs. Without their help, I could not imagine how I would have communicate with other Japanese because I can only speak simple Japanese. The volunteer from OASIS spoke English fluently and was very patient in explaining things to me. The procedur to make appointment was also very easy. I really thank you for your help.

(翻訳)

こんにちは、OASIS さん。

私は元気にやっています。OASIS が今年 30 年を迎えるなんて驚いています！OASIS の皆さんも元気で健康を維持していることを願っています。下記が私のメッセージです。

OASIS は私が仙台に住んでいた時、5 回以上助けてもらいました。それは保育園や病院のことに關することでした。OASIS の手助けがなければ、簡単な日本語しかできない私にとってどれだけコミュニケーションに大変だったか考えずにはられません。OASIS のボランティアの人たちは英語を流暢に話し、私に対しても辛抱強く説明してくれました。OASIS への予約の手続きもとても簡単でした。OASIS の支援に本当に感謝いたします。

Riska Shabrina さん

There are so many things that oasis has helped us. We have been accompanied during searching a nursery school for our son, until last when our son will enter kindergarten. We are really grateful to oasis for all of your help.

(翻訳)

OASIS は私たちに対しても多くの事柄に手助けをしてくれました。私の息子が最終的に幼稚園に入園するまで、保育所を探す期間、OASIS は私たちにとずっと付き添いをしてくれました。

OASIS の全ての支援に本当に感謝いたします。



Narantogtokh Bayarjavkhlan さん

Hello? OASIS, I want to say thank you for your help to change my driving license. It was great support for me because of your translation to communicate with officers and also your recommendation was very much useful for the driving exam. You're clearly a very knowledgeable and experienced person for this kind of support. Wish you all the best.



(翻訳)

こんにちは？OASIS さん、私の運転免許証の変更に協力いただき感謝いたします。免許担当者とのコミュニケーションに対する通訳はとても良いサポートであり、ドライブ試験の時のあなたの助言はとても役に立ちました。あなたは明らかにこれらのサポートにとっても知識が豊富で経験が豊かな人でした。あなたの幸運を祈っています。

Michelle Paet さん

For a lot of foreigners, living in a country where you don't speak the language can be very challenging. Even usual daily life activities can be tough and there can be miscommunications when interfacing with other people. That is why I was so grateful to have become familiar with the translation service offered by the volunteer group, OASIS.



While I have been living in Sendai for a few years now, I was in need of translation service when I had to attend a career consultation at HelloWork. The volunteer that was assigned to me even researched the process and procedures needed for the consultation.

The service offered by OASIS really makes a difference as they go beyond language interpretation/translation and extends their assistance in helping foreigners. I wish them all the best as they celebrate their 30th anniversary. Cheers to more years of your good office.

(翻訳)

多くの外国人にとって、その国の言葉を話せない場所に住むことはとても困難なことです。通常の日常生活でさえ大変であり、地元の人々と接するときでさえ誤解が生じるものです。だからこそ OASIS による通訳サービスは親しみがありとても感謝される理由です。

仙台に住んで何年か経つ中で、ハローワークの相談会に参加した時の通訳は私に必要不可欠なものでした。私に付き添ってくれたボランティアは、その相談会に必要な手続きや手順さえも調べてくれていました。

OASIS が提供してくれるサービスは、単なる通訳/翻訳という枠を超え、広範囲にわたるということで外国人支援において貢献しています。30 周年記念のお祝いに良きことを祈念します。OASIS がさらなる年月を経ることに乾杯。

Montshiwa Abednico Lopang, Ph.D さん

I consider OASIS in Sendai a ‘must-visit’ place if you are an international citizen living in Sendai. The members of staff at the Centre are very professional and will help you with anything you might be having difficulty with. The first time I came in contact with them was after my arrival in Japan and they were very helpful with my initial settlement in Sendai.



From there I never looked back and visited them frequently for assistance, like when I moved from the University dormitory to a private apartment, when my son enrolled at a kindergarten and when applying for elementary school. In the process I have made great friends and I consider them part of our family in Senda! What makes them even more special is that they are very knowledgeable and have the ‘know how’ with almost anything you are likely to face.

In the end, OASIS in Sendai has been instrumental in making living in Sendai very comfortable, enjoyable and filled with great memories.

(翻訳)

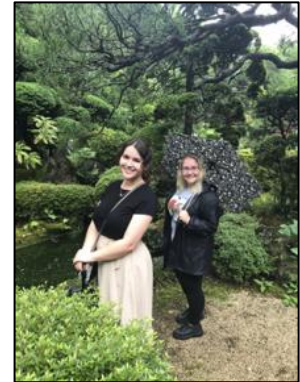
仙台に住む外国籍市民なら、仙台にある OASIS は“必ず訪問すべき場所”だと考えます。OASIS のスタッフはとても専門的で、もしあなたが問題に遭遇した時に助けてくれることでしょう。最初に OASIS にお世話になったのは、私が日本に到着した後であり、OASIS は私が仙台へ来た当初の生活が落ち着くまで手助けをしてくれました。

それからは迷うことなく彼らを頻繁に訪れ支援を求めました。例えば、大学の寮から民間アパートに移る時、息子の幼稚園入園時や小学校の入学手続きなど。そのような時は良い友達が出来たようであり、家族の一部のように感じました！OASIS をさらに特別なものに行っているのは、OASIS がとても情報を持ち、あなたが直面するほとんどの物事に対して“ノウハウ”を持っているということです。

最後に、私の仙台での生活をととても快適で楽しく素晴らしい思い出に満ちたものになっているのもひとえに OASIS のお陰です。

Gemma Amoruso さんと Isobel Miles さん

We had a wonderful experience with the volunteers from OASIS. They helped us so much with getting our Japanese Drivers Licenses. Without their kind help and support we would have never been able to successfully get our licenses.



The two volunteers who helped us were friendly, patient, cheerful, and carefully translated what we wanted to say. They took the time to learn more about us while we waited for the application and exchanged many stories with us. We felt like we were supported the whole time and did not feel nervous during the process. We appreciated that the volunteers had very good English so we could communicate easily.

We both were impressed with how professional and knowledgeable the volunteers were. They knew what to do and explained everything easily to us so we could understand. We would happily ask for assistance from OASIS again.

(翻訳)

私たちは OASIS のボランティアの方々と素晴らしい経験をしました。彼（彼女）らは日本の運転免許証を取得する上でたくさんの支援をしてくれました。彼らの親切な手助けとサポートが無ければ、私たちはうまく免許証を取得することは出来なかったでしょう。

私たちを手伝ってくれた二人のボランティアは、友好的で忍耐強く陽気で、我々が言いたいことを注意深く通訳してくれました。私たちが申し込みを待っている間、私たちについて学ぶために時間をとり、我々と多くの会話を交換しました。私たちはずっと支えられているような気がして、緊張もしませんでした。ボランティアの方々はとても良く英語を話して、簡単にコミュニケーションが取れて良かったです。

私たち二人は、ボランティアがどれだけ専門的で知識も持っていたことに感銘を受けました。彼らは何をすべきか知っていて、私たちが理解できるように全てを簡単に説明してくれました。私たちはまた OASIS の支援を喜んで依頼することでしょう。

I am Sana Talmoudi. I was a Tohoku University student from 2016 to 2021 and lived in Sendai between 2013 and 2017. I moved to Tokyo in 2017 and I am currently working as a data analyst in a startup for big data solutions.



During my stay in Sendai, I had the chance to experience the help and assistance from two of OASIS volunteers. I can summarize my experience in the word OUTSTANDING. 200 words cannot be enough to describe it.

I have a hard time asking help from my friends or even family. It is not about ego, but more about always wanting to be self-sufficient and independent. However, in Japan, if you do not speak the language, you have certain situations you cannot escape.

In my case it was first, when renting my first apartment and second, when I needed to visit a thyroid doctor urgently. But what touched my heart the most, is that on both occasions, besides the excellent and smooth translation, both volunteers were super considerate and made me feel like having a friend on my side.

Even though today we have AI-based translation solutions, such heartwarming behavior of the volunteers can never be substituted.

(翻訳)

私は Sana Talmoudi です。私は 2016 年から 2021 年まで東北大学の生徒で、2013 年から 2017 年まで仙台に住みました。2017 年に東京に引っ越し、最近はビックデータのスタートアップに関するデータアナリストとして働いています。

私が仙台に滞在中、2 名の OASIS のボランティアから助けと支援を体験する機会がありました。私の体験を OUTSTANDING という言葉でまとめることができます。200 文字で説明するのは十分ではありません。

私の友達や家族にさえ助けを求めることはとても大変です。それはエゴではなく、常に自前や自立でいたいということです。しかしながら日本では、もしあなたが日本語を話せなかったら抜け出すことが出来ない特別な状況になることでしょう。

最初の私の状況は、初めてアパートを借りる時で、2 度目は緊急で甲状腺のお医者さんにかかる時でした。しかし、最も感動したのは、どちらの状況においても優れたスムーズな通訳に加え、ボランティアの方々は非常に思いやりがあり、私の傍にいた友達のような気分にさせてくれたことです。

今日、たとえ AI ベースの通訳がいても、温かみを持った態度のボランティアは決して代用できないでしょう。

Sonia Mahmoudi さん

Thanks to OASIS, I am now able to drive in Japan!

Oasis supported me to obtain a Japanese driving license by accompanying me to the driving center, and helped me to translate all the necessary documents. They were also available to assist me when I needed to rent a parking space for my car.



It is very helpful for foreigners who cannot speak Japanese fluently. I could not have done this by myself. We are very lucky that such a group of volunteers exists and give us their time and kindness. Thank you again Oasis !

(翻訳)

ありがとう OASIS さん、私は今、日本で車の運転ができます！

OASIS は私を宮城県運転免許センターへ連れて行って日本の運転免許を取得するのを手伝ってくれて、必要な全ての書類の翻訳を手助けしてくれました。私の車の駐車場を必要とした時にも対応してくれました。

日本語が流暢に話せない外国人にとってとても助かります。私自身ではそれらは出来ませんでした。そのようなボランティアが存在し、彼らの時間と親切さを我々に与えてくれていることはとても幸運です。OASIS さん、本当にありがとう！

4. 付き添いボランティア利用者からのアンケート

付き添いボランティアした直後に外国人に聞きました。(30名からのアンケートより)

1) あなたご自身について教えてください

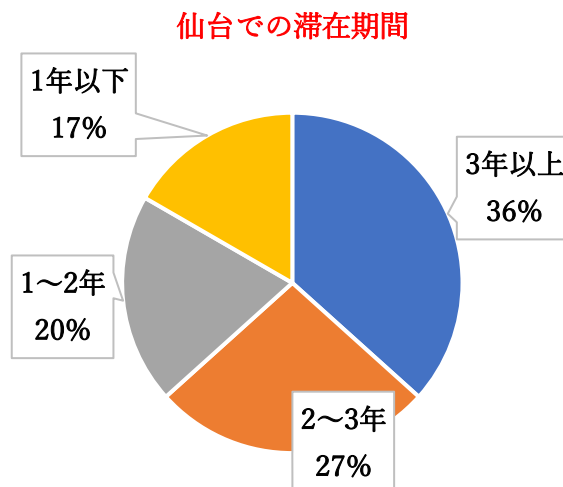
○ あなたの国籍はどこですか？

バングラデシュ 11 名、フィリピン 2 名、オランダ 2 名、イラン 2 名、スリランカ 2 名、パキスタン、フランス、コンゴ、ザンビア、イギリス、アフガニスタン、スペイン、インドネシア、モンゴル、中国、無記名各 1 名

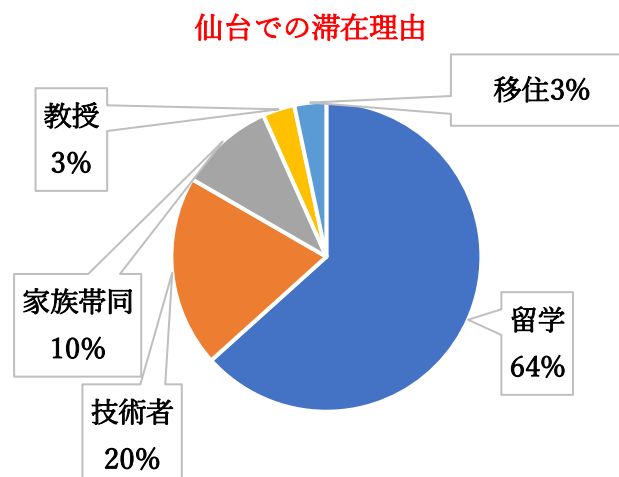
○ あなたの年齢は？

10 代 1 名、 20 代 4 名、 30 代 19 名、 40 代 3 名、 50 代 3 名

○ 仙台に滞在している期間は？

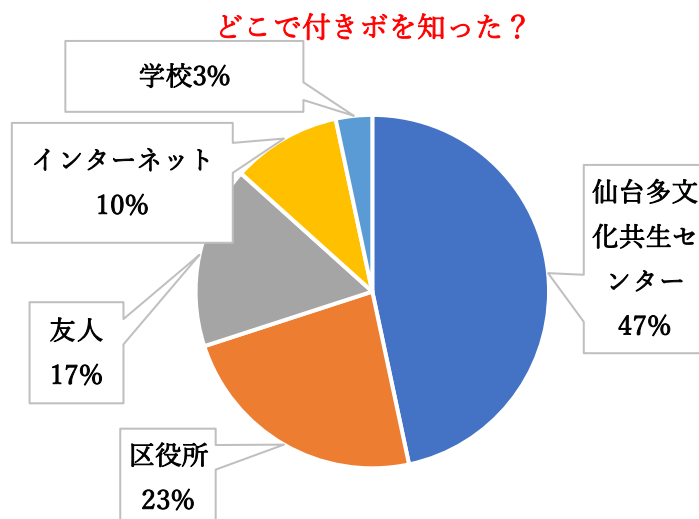


○ 滞在している理由は何ですか？

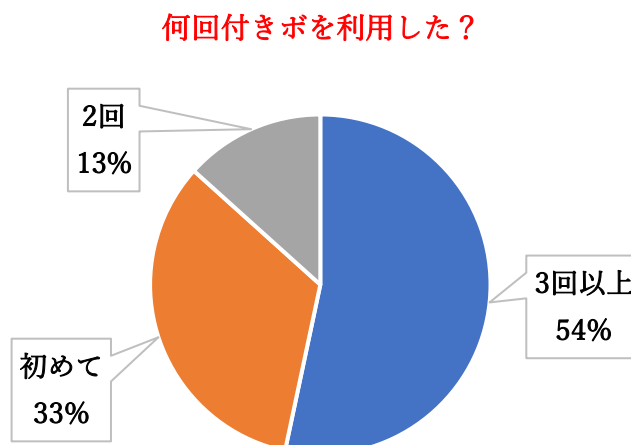


2) OASIS の付き添いボランティアについてお尋ねします

○ どこで付き添いボランティアを知りましたか？



○ 付き添いボランティアを今まで何回利用しましたか？



○ どんな時に付き添いボランティアを必要としますか？

- ・ Like interpreter.
- ・ Meeting at my daughter' s elementary school.
- ・ When we feel difficulties and face problem, we take help from TSUKIBO(SE-san).
Actually we always depends on her helping hand.
- ・ Driving License.

- Since I do not know Japanese Language, mostly I took help for interpreting in different situation.
- For getting Japanese driving license.
- When I need to complete administration paper from Aoba ward. When I register my child to school. When looking for an apartment. When I go to some doctor (child development, hearing test).
- To find children school and inspection for hospital.

○ 最後に OASIS へメッセージをお願いいたします。

- Yes, I appreciate. Thank you to OASIS Activities to support the foreigner' s life. Thank you very much to TJ-san. She is a good interpreter and nice person too.
- We are really grateful for the service provided by OASIS. We can' t imagine facing those situations without a translator. Translators are very kind and treat us like family. Thank you very much.
- As a foreigner, we are so helpless without knowing Japanese language. In this situation your support is a blessed to us. So we always want to get a support from your team like this. We are really grateful to you SE-san and your group. Thank you so much.
- Thank you very much for your help and support !! Specially to ST-san for being so kind with me.
- I am very grateful to OASIS for their kind help. This makes international students or residence' s life easy in Sendai.
- I am really satisfied with the support and cooperation I got during these days. SE-san, who helped me a lot, is a very friendly and wonderful woman. She can very good English and explained me everything in details. Thanking you for everything.
- OASIS is a really great organization with full of kind, helpful, and amazing peoples. I cannot imagine how my family and I can survive in Sendai without OASIS support. I always recommend this organization to other Indonesian people in Sendai. So I hope OASIS will always exist and getting a bigger and bigger in

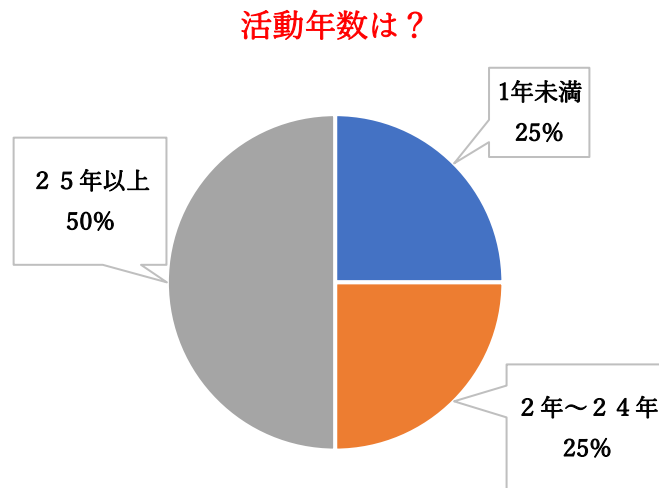
the future, because I believe OASIS is an important organization for foreigners in Sendai. I would like to say thank you very much from my deepest heart to OASIS and I wish all the best and stay healthy for all OASIS staff !!!

- I am very thank you for your help to change my driving license. Good luck for all of you.

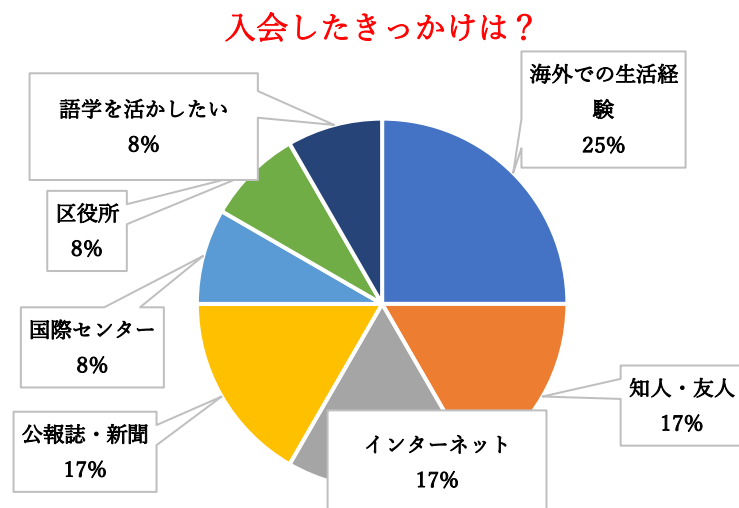
5. OASIS 会員の声

現在の OASIS の会員に今までの活動で感じたことなどについてアンケートをとりました。

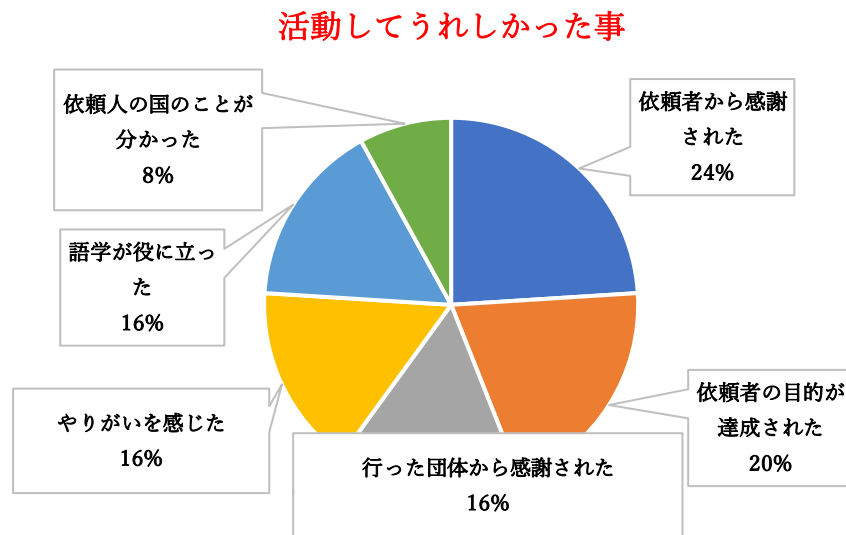
1) あなたの活動年数はどれくらいですか？（I.V. ネットワークを含む）



2) 入会したきっかけは何ですか？



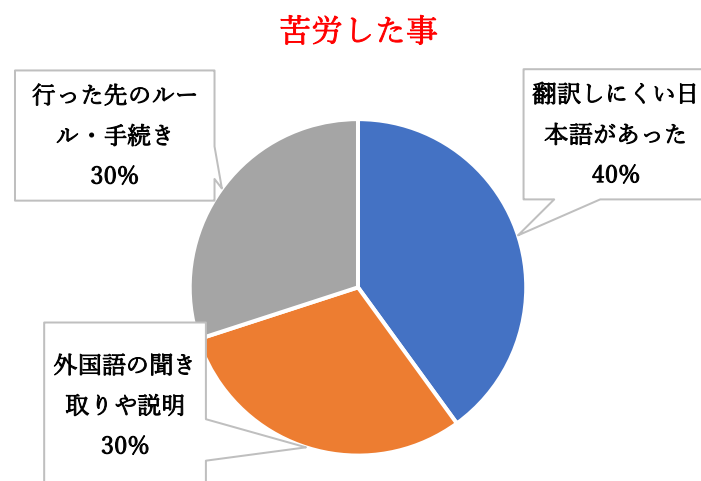
3) 今まで活動していて嬉しかった事は何ですか？



○ 嬉しかった事についてエピソードがあれば具体的に教えてください

- ・ まだ付きボの経験は浅いのですが、どなたにも感謝されるので本当にありがたい。英語は完璧ではなくても、過去の経験（子育て）などのことを話すと喜ばれるのでうれしい。
（保育所、児童館などの付き添いの場合）
- ・ 相談・情報カウンターで度々お話しした留学生から、帰国直前に「実は勉強がうまくいなくて落ち込んでいた時期に、話を聞いてもらえて本当に救われた」と言われたこと。話の内容はたわいないものだったのに。
- ・ ネット受験の試験監督、仙台国際センターでも初めての対応だった病院（小児科）、仙台市郊外にあるため、日本語よりも病院までのアクセス方法が難しかった。
- ・ 病院の入院手続きで付きボに行きました。当初は1日だけの2～3時間の予定でしたが、次の日に検査手術などがある事が分かり、急遽、2日目も付きボしました。2日目は大事な検査前後の通訳もお手伝い出来たので本人と奥さんからとても感謝されました。
- ・ 特別支援学校見学、交通違反者講習、留置所、ハローワークなど行ったことのない場所への付添いは、自分自身の視野を広げる機会となり、勉強になりました。
- ・ 赤ちゃんの付きボの時は、その子が成長していく様子を見られて嬉しかったです（何回か付き添ったので）。

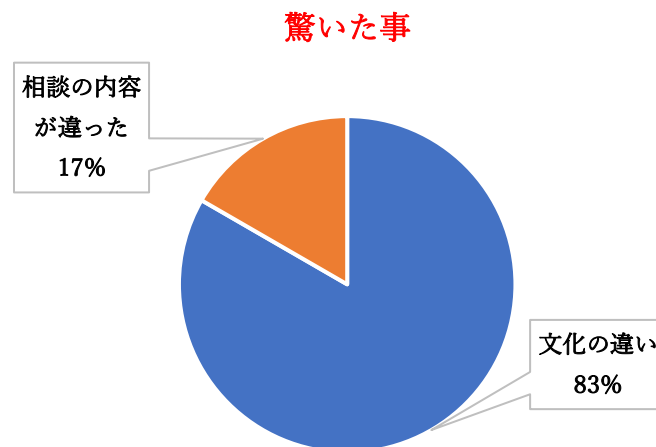
4) 活動していて苦勞した事は何ですか？



○ 苦勞した事についてエピソードがあれば具体的に教えてください

- ・ デリケートな内容の時は言い回しに気を使う。私の場合、当日その場でできるものではないので、事前に資料や話を聞いて当日までに英語を考えておく必要があった。
- ・ 個人面談などはいいいのですが、大勢の集会で、周囲が静かなのに、演者の話などを伝え続けるのは難しいです。
- ・ 同じような書類が多数あり、氏名、連絡先の記入を重ねたこと。
- ・ 宮城県運転免許センターへの付きボのことです。原付免許を一般人と同様に試験を受けるとのことでしたが、試験の前に「実車講習」が必須ということで午前に講習、午後に試験という朝8時から16時頃までかかりました。初めての原付付きボだったので手探りで大変でした。
- ・ 会員数の少ない時期に付き添いのコーディネーターを担当した際には、要望に応じるのに苦勞しました。
- ・ アーチル（発達相談支援センター）やお産の病院等、専門的な言葉が多いので事前にプリントをいただいたりして勉強して行ったりしました。

5) 活動していて驚いた事はなんですか？



○ 驚いた事についてエピソードがあれば具体的に教えてください

- ・ 時間を守るという観念の国による違い。時間厳守は日本人が一番かもしれません。
- ・ お国柄で付きボ依頼を繰り返す人と、2回目からは一人で大丈夫！という自立した人がいること。
- ・ 小児科 NICU での生命に対する家族の考え方の違い。
- ・ 病院での付きボの事です。入院した本人と奥さんの宗教上、病院食は全く不要であり、奥さんが毎日病院へハラル食を持参するということと、それを保管する冷蔵庫のことで病院側との調整を通訳しました。これも初めてだったので新鮮な驚きでした。
- ・ 「万事交渉次第」という文化の国からの方には、日本で諸手続きの厳格さをなかなか納得してもらえず、驚きました。
- ・ こちらは早めに着いているのですが、外国人が大幅に遅刻するケースが多い。もう慣れましたが（笑）。
- ・ 特に驚いたことはありませんでした。いろいろな国の人達でしたが、おだやかな人達でした。

6) 他に印象に残ったことや付きボで気を付けていることがあれば教えてください

- ・ 事前に内容をできるだけ確認するようにしている。経験者に話を聞いたり仙台多文化共生センターの資料に目を通したりして英語を考えておく。
- ・ 外国人の方は緊張していると思うので、物腰柔らかく、なるべくスマイル&世間話でリラックスしてもらうよう努める。
- ・ とにかく外国の方の安心を第一に考える。
- ・ アーチル（発達相談支援センター）のクラスの参加者に付き添った時に、周りの日本人の参加者に対する気遣いも必要と感じました。部外者がいることを快く思わない雰囲気もあった。
- ・ 自分の考えを押し付けないこと。
- ・ 気を付けていることですが、付きボ先のルールや手続きで自分が知らない時は付きボ先の日本人と日本語の会話が少し長くなることがあります。その時、外国人が長く「蚊帳の外」にならないように、出来るだけ「今は何の話」など英語で話しかけるようにしている。
- ・ 相談者は自分に都合のよい回答を求める傾向が強いので、情報が不確実な段階では、徒に肯定的な回答をして後で落胆させることがないように気を付けています。
- ・ お手伝いして感謝され、こちらこそ感謝です。

7) 今後、将来の活動に向けてコメントがあれば教えてください。

○ 記念誌発行に寄せて……

- ・ 30年の長きにわたる活動をまとめるのは至難のことと思いますが、仙台にこんな活動があるということを知らない人は多いはず。少しでも多くの人にOASISの活動を知ってもらうためにとても大切な記念誌になると思います。
- ・ 女性は自分だけではなく家族も健康でなければこういう活動を続けられません。しばらくお休みした時期もありましたが、いつも今ボランティアをできる幸せを感じていました。会員の皆さんもユニークで気持ちがいつも上向きで、刺激を受け、あっという間の25年間でした。
- ・ ボランティア活動開始した頃は、「仙台国際センターは普通の人は入れないんだよね？」と聞かれたりしていました。現在では市民にも国際交流が広がってきています。コロナ禍でまた異文化理解の志が下火にならないようにOASISの活動を知っていただきたい。
- ・ OASISが外国人へ支援している様々な活動はなかなか他の人に説明が簡単には出来ないも

のです。それが今回記念誌という小冊子を発行することで、他の県や市町村で行われている同様の団体へ対し少しでも紹介できるし、何よりも良い“参考書”になると思います。

- ・ この度の発行をきっかけに、これまでの様々な活動の軌跡を再認識できました。懐かし
く、誇らしく思います。

○ OASIS の将来に向けて……

- ・ 子供が巣立った寂しさを紛らわすために英会話を始めました。しかし英語を習うことが目的になってしまい、だんだんとやる気がなくなっていった頃、OASIS の存在を知りました。英語を使って人助けをする、ということはまさに私が求めていたことです。そしてそんなことをこの団体は 30 年もやっていたのです。外国人が仙台市にいる限り、OASIS はいつまでも必要な団体です。そして私たちメンバーにとっても大変やりがいのある、意義のある存在だと思います。
- ・ かつてはなかった小学校の国際クラスや、公共施設の外国語対応職員も増えてきたのはとてもいいことだと思います。今後、外国語対応の保育士さんなども配置されるようになる
と聞いていますが、まだ必要とされるところがあれば続けたいです。
- ・ AI が活躍しても、人との関りを続けていただきたい。
- ・ 近い将来、コロナ禍が収束すれば、仙台にまた多くの外国人が訪れ住むことでしょう。その時にはますます OASIS による支援活動が必要になってくると思います。今後とも末永い OASIS の外国人支援活動を期待します。
- ・ 私達の活動は、グループを取り巻く状況に応じて変化してきました。これからも、その時々
に合った役割を果たしていければと思います。
- ・ さらに多くの方々が参加し定着してくれることを望みます。

6. SenTIA スタッフからのメッセージ

OASIS の前身となる I.V. ネットワーク相談支援部会が活動を始められたのは、私が仙台国際交流協会に就職した時でした。社会人経験も少なく、国際交流や多文化共生について全くの素人だった私は、OASIS をはじめとする市民ボランティアの皆様に取り組み、いろいろなことを教えていただきながら、なんとかこれまで仕事を続けてこられました。毎年一緒に汗を流した留学生リサイクルバザーや、留学生リサイクル自転車幹旋会もよい思い出です。家事やお仕事をこなしながら、そのご経験を活かしてボランティア活動をされるみなさんには、いつも尊敬の念でいっぱいです。美味しい外国料理や子育てなど、人生の先輩としてたくさんのアドバイスをいただきました。みなさんが相談・情報カウンターにいらっしゃる時にお喋りさせていただくのも、仕事中の楽しみのひとつでした。現在、協会で働いている職員、そして異動や退職で離れていった大勢の元職員を代表して、感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。これまで長い間、本当にお世話になりました。そして、これからもずっと、よろしくお願いします！

須藤 伸子（国際化事業部 部長）

2013 年、交流コーナー（現：仙台多文化共生センター）での仕事を始めました。知識も経験も圧倒的に不足しており、右も左もわからない状況でのスタートでした。初めて OASIS 担当者会に出席した際、緊張している私に「取って食べたりしないから大丈夫」と明るく声をかけてくださり、そのお心遣いに気持ちがほぐれたことを今でも覚えています。

相談対応そして人生経験も豊富な OASIS の皆さまに支えられ、鍛えていただいたおかげで、今の自分があると言っても過言ではありません。外国人支援に対する皆さまの思い・姿勢から沢山のことを学ばせていただいたことで、日々成長することができました。

これまで約 9 年間、数えきれないほどの付き添いボランティアの調整を行ってきました。同行可能であることを伝えと、どの相談者も決まって安堵した表情になります。それは外国人だけではなく、派遣先の日本人も同様です。感謝の言葉を聞くたびに、OASIS の活動が、言葉と文化の壁を抱えている人々からいかに必要とされているかを実感します。

OASIS の活動が 30 周年を迎えたこの大事な節目に、菊池係長と共に、記念誌の作成に携わることができて、大変光栄でした。尽力してくださった反田さん、佐藤さん、本当にお疲れさまでした。完成した記念誌を手にとること、そしてまた一緒に相談・情報カウンターに立つ日を心待ちにしております。

本郷 真理香（仙台多文化共生センター 職員）



7. 年表

年代	OASISの出来事	世の中の出来事
1991年 (平成3年)	9月 仙台国際センター開館 「仙台IVネットワーク相談支援部会」として活動開始 会長:日向則子	1月 湾岸戦争勃発 12月 ソビエト連邦崩壊
1992年 (平成4年)	3月 付添いボランティア開始 7月 「第1回帰国子女親のつどい」開催	9月 学校週休2日制が開始 11月 アメリカ大統領に第42代ビル・クリントン当選
1993年 (平成5年)	9月 IVネットワーク主催「国際センターまつり」で 「留学生リサイクルバザー」開始	5月 Jリーグ開幕 7月 北海道南西沖地震
1994年 (平成6年)	9月 「帰国子女親のつどい」with現役教師	6月 初めて1ドルが100円を割る
1995年 (平成7年)	7月 「帰国子女親のつどい」年2回開催 10月 山形研修(他団体見学)	1月 阪神淡路大震災 3月 地下鉄サリン事件
1996年 (平成8年)	6月 交流サロン開始	
1997年 (平成9年)	12月 風揚げ交流会開催	4月 消費税が5% 7月 イギリスから中国へ香港返還
1998年 (平成10年)	4月 会長:永島保生 11月 カウンター研修会(施設見学ツアー)	2月 長野冬季オリンピック
1999年 (平成11年)		1月 欧州で単一通貨ユーロ誕生
2000年 (平成12年)	4月 会長:反田恵美子 ・年6回カウンター担当者会開催決定 ・会則・事業等を整理・手引き作成	6月 三宅島噴火 11月 アメリカ大統領に第43代ジョージ・W・ブッシュ当選
2001年 (平成13年)	3月 IVネットワーク主催「仙台国際ハーフマラソン 交流会」に実行委員として参加 9月 留学生に奨励金の授与を始める	3月 USJ開業 9月 アメリカ同時多発テロ
2002年 (平成14年)	3月 IVネットワーク主催「仙台国際ハーフマラソン 交流会」に実行委員として参加 11月 最終「帰国子女親のつどい」	5月 日韓ワールドカップ開催
2003年 (平成15年)	3月 IVネットワーク主催「仙台国際ハーフマラソン 交流会」に実行委員として参加	
2004年 (平成16年)	11月 IVネットワーク拡大合同会議	11月 東北楽天ゴールデンイーグルス誕生
2005年 (平成17年)	12月 IVネットワーク拡大合同会議	3月 愛知万博開催
2006年 (平成18年)	6月 部会研修会 場所:「緑水庵」 9月 第14回留学生リサイクルバザーを最後に終了 12月 IVネットワーク拡大合同会議	2月 トリノオリンピックで荒川静香金メダル

年代	OASISの出来事	世の中の出来事
2007年 (平成19年)	1月 IVネットワーク拡大合同会議 3月 仙台IVネットワーク解散総会 4月 外国人支援ボランティアグループ 「相談支援の会OASIS」立上げ	
2008年 (平成20年)	3月 ワークショップ開催 11月 「宮城多言語進路ガイダンス」実行委員会発足 11月 SIRA(仙台国際交流会)と合同窓口研修会	9月 リーマンショック 11月 アメリカ大統領に第44代バラク・オバマ当選
2009年 (平成21年)	10月 「宮城多言語進路ガイダンス」開催	
2010年 (平成22年)	3月 SIRA合同窓口研修会 8月 「市政だより8月号」に活動紹介記事掲載 9月 「宮城多言語進路ガイダンス」	
2011年 (平成23年)	5月 仙台市青葉区「いきいき青葉区推進協議会」より表彰 9月 (財)仙台国際交流協会(SIRA)より感謝状授与	3月 東日本大震災
2012年 (平成24年)	7月 「宮城多言語進路ガイダンス」	5月 東京スカイツリー開業
2013年 (平成25年)	7月 SIRA合同窓口研修会 7月 「宮城多言語進路ガイダンス」	9月 2020東京オリンピック開催決定 11月 東北楽天ゴールデンイーグルス日本一
2014年 (平成26年)	4月 「外国人支援の会OASIS」に名称変更 9月 SIRA合同窓口研修会	2月 ソチ冬季オリンピックで羽生結弦が金メダル 4月 消費税が8%
2015年 (平成27年)	4月 仙台国際交流協会と仙台観光コンベンション協会が 統合。(公財)仙台観光国際協会(SenTIA)発足 11月 SenTIA合同窓口研修会	
2016年 (平成28年)	1月 仙台市役所外国人市民対応研修会講師 3月 宮城県「住みよいみやぎづくり功績賞」受賞 12月 SenTIA合同窓口研修会	11月 アメリカ大統領に第45代ドナルド・ジョン・トランプ当選
2017年 (平成29年)	1月 仙台市役所外国人市民対応研修会講師 5月 一般社団法人日本善行会春期善行表彰 8月 SenTIA合同窓口研修会(入国管理局見学)	
2018年 (平成30年)	1月 仙台市役所外国人市民対応研修会講師 1月 「にほんごの杜」研修会講師 7月12月 SenTIA合同窓口研修会	2月 平昌冬季オリンピックで羽生結弦が2個目の金メダル
2019年 (平成31、令和元年)	2月 仙台市役所外国人市民対応研修会講師 4月 「国際センター交流コーナー」が 「仙台多文化共生センター」へ変更	4月 新元号「令和」を発表
2020年 (令和2年)	2月 新型コロナウイルスの影響でカウンターを一時休止	1月 日本で新型コロナウイルス確認 3月 東京オリンピック・パラリンピックの開幕延期決定
2021年 (令和3年)	新型コロナウイルスのため担当者会が一時休止するも 付き添いボランティアは継続して活動	8月 東京オリンピック・パラリンピック開催
2022年 (令和4年)	3月 外国人支援の会OASIS30周年記念誌発行	2月 北京冬季オリンピックで冬季日本過去最多メダル

8. 資料編

祝

＜表彰＞

- 2011年5月 仙台市青葉区「いきいき青葉区推進協議会」より表彰
- 2011年9月 (財) 仙台国際交流協会より 仙台市での長年にわたる国際交流への寄与に関し感謝状
- 2016年3月 宮城県「住みよしみやぎづくり功績賞」受賞
- 2017年5月 一般社団法人日本善行会「春期善行」表彰

＜付きボ広報チラシ No.1＞



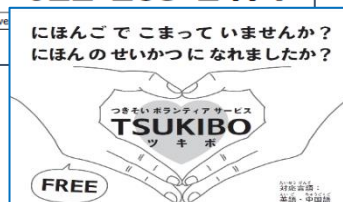
＜付きボ広報チラシ No.2＞



＜会員募集チラシ＞



日本語版→



＜アフィリエイト＞

ボランティアグループ 外国人支援の会

OASIS

-Open Assist & Support In Sendai-

相談窓口

多岐にわたる相談受付、仙台及び宮城県近郊の観光情報、仙台で生活するにあたっての各種生活情報等の提供を行っています。

場所：仙台国際センター 交流コーナー 相談カウンター

時間：月 13:00～16:00
火 10:00～16:00
水 10:00～16:00
木 13:00～16:00
金 10:00～16:00

開設実績：年間 170～180 日

TSUKIBO - ツキボ - 付き添いボランティア

日本語でのコミュニケーションが不自由であったり、日本の生活に不慣れな依頼者に付き添って、公的機関・教育機関・病院・店などに outgoing サポートを行う活動です。

対応言語：英語、中国語、
費用：無料
年間実績：80～100 件

主な付き添い場所：

- 48 -

9. 編集後記

新型コロナウイルスが蔓延する前のある日、SenTIA の相談・情報カウンターで他県の人から「これから〇〇県で外国人支援活動を始めますが活動で大変なことや苦労した事は何ですか？」と聞かれました。私は当時まだ OASIS に入会して日が浅く詳しい話は出来ませんでした。その後コロナが感染拡大し始め、SenTIA から「OASIS の活動も一時休止になり時間ができると思うので記念誌を作成したらどうでしょう」と言われたことを反田会長から聞き、それなら記念誌があればいつかまた他県の人 came 時に詳しく活動を紹介できると思ったのが、私が記念誌に関わるきっかけでした。

記念誌の中の座談会では様々な活動での苦労話やエピソードなどがあり、この情報こそが他の団体でも大きな参考になると感じました。特に「通訳という作業より“付き添う”ことで外国人の不安を和らげるのがこの活動の原点」との言葉に感銘を受けました。

誌面を作る上でご協力頂いた外国人の方々、SenTIA の皆さん、OASIS 会員やその他関係者の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

外国人支援の会 OASIS 記念誌編集長 佐藤 毅

記念誌編集委員

反田 恵美子／ 宮仕 佳恵／ 大黒 道子／ 鈴木 裕子／

高橋 真弓／ 辻 純子（外国人支援の会 OASIS）

菊池 哲佳／ 本郷 真理香（仙台観光国際協会（SenTIA））

外国人支援の会 OASIS
(Open Assist & Support In Sendai)
30 周年記念誌「30 年のあゆみ」
発行 令和 4 年（2022 年）3 月

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山
仙台国際センター会議棟 1 階
仙台多文化共生センター

ボランティアグループ 外国人支援の会

OASIS

-Open Assist & Support In Sendai-

